

門真市海外派遣研修  
～KADREAMS is forever～

『帰国後交流会』を実施しました。

日時 令和元年8月24日(土)  
午後1時30分～3時30分  
会場 門真市立門真市民プラザ内4階  
教育センター研修室

参加者 久木元 秀平 教育長  
長澤 信之 教育長職務代理者  
土川 好子 教育委員  
島ノ江 政彦(古川橋小学校)  
今井 茜(学校教育課)

海外派遣研修生

角 野乃香(第二中学校)  
木村 和心(第二中学校)  
中野 珠里(第二中学校)  
井本 彩音(第三中学校)  
笹木 春菜(第三中学校)  
川田 麻絢(第五中学校)  
畠中 弦大(第五中学校)  
水野 良謙(第七中学校)  
坂本 秀樹(門真はすはな中学校)

<今井>それでは先ほどの報告会に引き続きまして、ただいまより懇親会を始めたいと思います。各教育委員、教育長から質問があればなんなりと研修生に聞いてみてください。島ノ江先生にもぜひ。

<久木元教育長>いろんな話聞かせてもらいまして、ほんとに楽しかったです。何人かの方が、短期間の中で「英語がわかるようになった」と、効果を実感して話してくれていたけど、同じようなことを体感したという人、手をあげていただけますか？

(全員が挙手)

<久木元教育長>全員か！素晴らしいな。短期間でそんなにわかるようになる？劇的



に変化を感じるような瞬間があるの？

<坂本>英語の文とかを読んでいると、今までは英文を読んで、頭の中で日本語にして理解していたのが、直接わかるようになって、そういう時に、自分の変化に気づきました。

<久木元教育長>すごいね。一週間目くらいに？

<坂本>いや、四日目くらいで。

<久木元教育長>じゃあ、四日間くらい外国の人と生活したら、一気に英語は上達するのかな？

<畠中>たぶん、そうだと思います。

<久木元教育長>現地の学校の中で集中して、一日英語漬けの生活をするのは非常に効果があるということかもしれないね。それから皆さん、ホストの方とかバディの子とか、いろいろ話をしたと言っていたけど、最初まだやり取りできないときに、どんな会話をした？

<畠中>まずバディに一言目に「ガールフレンドはいますか？」って聞かれました。

<一同>おー！

<久木元教育長>それはすぐ理解できたの？

<畠中>はい、できました。

<長澤教育長職務代理者>で、どういうふうに答えたの？

<畠中>いません、とはっきりと答えました（笑）

<久木元教育長>そうかー。「いません」というのは英語で何と言った？

<畠中>わからないので“No！”と言いました。



<久木元教育長>坂本君は？

<坂本>初めてでわからないことが多かったの“How to use this?”のような感じで聞くことが多かったです。

<久木元教育長>「これなんですか？」といったような感じでね。そういう感じで聞けば、だいたいうまく説明してくれるの？

<坂本>はい。ただ、たまに聞き取れないことがあって、大変でしたね。

<久木元教育長>それはバディ？ホストファミリー？

<坂本>両方ですね。

<久木元教育長>井本さんはどうですか？

<井本>ホストファミリーが、ミニチュアとこけしが大好きで集めていたので、その話をしていました。

<久木元教育長>そういう時でも、だいたいどういうことを言おうとしているかわかる？

<井本>なんとなくはわかります。

<久木元教育長>やっぱりわかるとういう気持ちになればわかるんだね。木村さんはどうでした？

<木村>ホストファミリーが、食事の時にオーストラリア独特の料理を出してくれて、それについてのこととか、オーストラリアの文化を教えてくださいました。

<久木元教育長>だいたい分かった？

<木村>だいたいわかりました。わからないときは絵に描いてくれたり、グーグルを使って教えてくださいました。

<久木元教育長>そうですか。食べ物は、材料はどんなのか、とか、そういう感じですか？

<木村>はい。

<角>私は、バディと連絡先を交換したのですが、その子のホーム画面が私の好きな日本のキャラクターだったので、それですごく話が盛り上がりました。

<久木元教育長>何のキャラクター？

<角>ポニョです。私はジブリが好きで、それを見た瞬間にテンションが上がって、その子に「好きなの？」って聞いて、すごい、盛り上がりました。

<笹木>私は日本からお土産を持ってきて、それをホストファミリーに渡したら、「これは何？」みたいな感じの会話になりました。

<久木元教育長>そうだね。話題になるよね。持って行けば会話が繋がっていくよね。水野君は？

<水野>シャワーとか使う時に「使ってもいいですか？」って聞いたり、「トイレどこにありますか？」って聞いたりしました。



<久木元教育長>さっき報告会で、裸でシャワーの使い方を聞いたって言っていたのは君だった？(笑)

<畠中>それは坂本君です！(笑)

<坂本>シャワーの使い方がわからなくて、冷たいのしか出なくて。でも、部屋に全部服を脱いできていたので、どうしようかと(笑)。仕方がないので隣の人にコンコンとしてどうやって使うか凍えながら聞きました。

<久木元教育長>大体、凍えているのは見たらわかるだろうからね。中野さんはどんな話を？

<中野>私は、ホストマザーに「どんなスポーツやってるの？」とか「こっちで何がしたいの？」とか聞かれました。

<久木元教育長>それに答えて、また、逆に問い返したり？

<中野>「日本に来たことありますか？」とか聞きました。

<久木元教育長>それで英語が伝わったら楽しいね。川田さんは？

<川田>最初は向こうからいっぱい話しかけてくれました。家のルールとか紹介とか

話してくれて、その中で、ホストファミリーの長女の子がバスケットボールをしていて、ホストファザーもNBAが好きということがわかって、私もバスケ部なので、バスケの話をしました。



<久木元教育長>八村塁選手の話はした？(笑)

<川田>はい、しました。知っていました。

<久木元教育長>通じた？なるほど。そうですか。もう、一点。皆さん、コンテストでプレゼンテーションしたでしょ。そのプレゼンが活かした事っていうのはありましたか？

<坂本>普通に会話するより、説明するのは難しいので、文章を組み立てる力が上がったなって思いました。

<久木元教育長>みんなのプレゼンの中で、坂本君は竹の話、畠中君は野球の事。自分のテーマに沿った事が今回、役に立ったかどうか順番に教えてほしい。

<畠中>オーストラリアではあまり野球が有名ではないんですが、ただ「野球は知っている」という子は多かったです。チャールズキャンベルカレッジにいた子も僕が野球している事を知って、その子はイチロー選手が好きで、「Ichiro is god」「イチローは神様だ！」って言っていました。

<久木元教育長>そうですか、イチロー選

手は世界的に有名なんだね。

<畠中>はい。

<久木元教育長>坂本君は竹の話題、どうでしたか？

<坂本>現地に竹がなかったので、こっちから竹製品を持って行って、説明しました。

<久木元教育長>竹と言う単語はあるんだよね？バンブー。それはわかるけど、竹っていうものが、向こうにはない？

<坂本>そうですね。

<久木元教育長>発見だね。井本さんは、ミュージカルのグレイテスト・ショーマン。その話はした？

<井本>演じている人がオーストラリア出身の方だったので、その話で盛り上がりました。

<久木元教育長>盛り上がるよね。ミュージカルは共通言語だもんね。木村さんは？

<木村>和食についてプレゼンしたんですけど、オーストラリアはお米を食べる習慣があまりないのですが、ホストファミリーの人にプレゼンの事を話したら話が盛り上がり、「和食作ってあげる」と言って作ってくれました。



<久木元教育長>和食、作ってくれたの？

<木村>味噌汁とかは。朝にシリアルと味噌汁とか（笑）

<久木元教育長>向こうの人は普段は作ら

ないけど、作ろうと思ったら簡単に作れるんだ。味噌汁、中に何が入っていたの？

<木村>ワカメと油あげとか。

<久木元教育長>そうですね。角さんは？

<角>私は、ジブリ映画でプレゼンテーションをしたんですけど、さっき言ったとおりジブリ映画の話で盛り上がったり、現地のフェアウェルパーティで行ったプレゼンでも、ジブリ映画の絵を書いてどんだんボードに貼っていったんですけど、その時に知っている映画があると、「おーっ」と声が上がりました。

プレゼンが終わった後にも、チャールズ・キャンベル・カレッジの副校長がラピュタ好きで、その話でも盛り上がりました。<久木元教育長>京都アニメーションの話はでなかった？

<角> ありました。そういう事件があったというのを知ってました。

<久木元教育長>みんな知っていたでしょうね。世界的なニュースになってますからね。

<角>日本のアニメが外国で人気な事を実感しました。

<久木元教育長>なるほど、なるほど。アニメの道に行きたいとか思い始めた？

<角>いえ、それは思っていないんですが（笑）

<久木元教育長>笹木さんはどうですか？

<笹木>私は、音楽とか歌とかでプレゼンテーションをしました。ホストファミリーに私はコーラス部ですと言ったらサウンドオブミュージックと言う映画が好きらしくて最終日にみせてくれて、歌っているシーンとかで、とんだり大きな声で歌ってました（笑）。

<久木元教育長>一緒に歌った？

<笹木>英語だったから、ちょっとよく分からなくて。

<久木元教育長>歌も共通言語だよ。水野君は？

<水野>アニメとマンガの事を発表したんですが、ルームメイトのアンソン君がパソコンを持っていて、その下にひいているマットが『Re:ゼロ』でした。

<久木元教育長>ちょっとわからないけど…。アニメが好きの子だったんだ。

<中野>私は殺処分についてプレゼンしたんですけど、殺処分についての話はあまりしてないです。でも、動物が好きという人がいたので、私の家の犬の写真を見せたりはしました。



<久木元教育長>殺処分の話はなかなか深刻だからね。動物がかわいいというのはどこの世界でも同じだね。川田さんは？

<川田>私は抹茶について発表したのですが、オーストラリアでは抹茶って言っても通じる人もいたら、通じない人もいてあまり浸透してないのかなって思いました。

<久木元教育長>普通のお茶のほうが良かったのかなあ。

<川田>でも、私が好きなのは抹茶なんです(笑)。

<久木元教育長>抹茶アイスとか、抹茶を使った食べ物がありますよ、とか、健康的で日本では人気ですよと説明しても、そこ

まで通じないんですね。

はい、皆さん、ありがとうございました。プレゼンは説明の仕方とか、そういう面で非常に役に立っていると思うし、皆さん面白いテーマを調べてくれて、話のきっかけになるという事をよく体感していただいたと思います。

島ノ江先生はどうでした？会話は大体、何の会話をしているんですか？

<島ノ江>まあ、シチュエーションに合わせて、大体なにかこの事について言っているな、というのはわかるので、ジェスチャーを交えながら話したり、目の前にある物を使って会話したりしていました。だから、みんなが言っている感覚は分かります。中学校、高校で習った英語の延長で何も積み上げがないので、自分の英語力がいかに低いかっていうことを痛感しました。

これから小学校の子どもたちに、どういふことをしていけば子どもたちが成長していくのか、というのをこの二週間位考えて、二学期以降活かしたいと思っています。



<久木元教育長>小学校の英語頼みますよ。確実に子どもたちに学ぶ意欲が湧いてくるように！

<長澤教育長職務代理者>これが第8回目の交流会で、私、8回すべての交流会に出ているんですが、毎回、文化の違いを聞か

せてもらっています。本職が教師で、中学校の教師をずっとしていたので、学校生活における文化の違いにすごく興味があって、そのあたり、感じたことを教えてほしい。授業のチャイムがブザーみたいとか、授業中パソコンで個人が打っているとか、そんなのも含めて日本の学校と違う所を教えてください。

＜川田＞オーストラリアの学校では、教科ごとに教室があって自分たちがそこに移動して、そこで授業を受けるという形で、自分たちのクラスの教室っていうのがありませんでした。

教室も日本なら机が縦に並んでいる形ですけど、例えば、保健体育の授業ではコの字の列の中に、孤島みたいな机もあって、私達は孤島の席に座ったので、ちょっとやりづらいと思った（笑）。

＜中野＞学校にスマホとかお菓子、お金も持って行ってよくて、スマホもOKで、授業中スマホをいじったり、お菓子を食べている子もいたり、急に教室から出てどこかに行ったりって、自由な感じでした。

授業の長さも、短いのもあったけど、長いのは1時間25分位あって、後半位からちょっと退屈でした。

＜久木元教育長＞ スマホは勿論、授業中はダメだよな？

＜中野＞触っている子もいました。

＜久木元教育長＞授業中も触ってるの！そうなんだ。結構自由だね。

＜長澤教育長職務代理者＞お菓子は、前にも聞いたことがあるけど、お金も使う用事あるの？

＜中野＞お昼ご飯は自分たちで持ってくることもあります、売店があるので。

＜水野＞休み時間、日本だったらみんな教室の中でしゃべっているけど、オーストラリアではほぼ全員が外に出て、話したり、サッカーやバスケット、ラグビーみたいなのをしたりしてます。

＜長澤教育長職務代理者＞休み時間、何分位あるの？

＜水野＞20分くらい。

＜長澤教育長職務代理者＞20分くらいあるんだ。笹木さんはどういうこと感じた？

＜笹木＞日本の学校にはない授業とかがあって、私のバディも中国語を選択しているので、一緒に中国語の授業を受けていました。

＜角＞クラスがなくて教科担任制で自分が受けたい、学びたい教科を自由に学べるのが日本でいう大学みたいでいいなと思いました。



＜長澤教育長職務代理者＞木村さんは？

＜木村＞二つあります。一つは、日本では外靴と上靴になっているけど、オーストラリアでは全部外靴で、教室にもその靴が入ったりして、そこは違うなあって思いました。

二つ目は日本では授業終わった後にクラブ活動をするけど、オーストラリアではクラブとかなくてスポーツしたい子は外のスポーツクラブとかにいたりしていました。

<長澤教育長職務代理者>体育の授業はあった？

<木村>あったんですが、自分のところは受けていなです。

<長澤教育長職務代理者>あ、そうでしたか。井本さんはどうでしたか？

<井本>私のバディはとても友達が多くて、バディとその友達は休み時間いつも同じ所に行くんですが、私のバディのまわりに自然に人がいっぱい集まってきて、歩いて行ったらまた、違うグループがまた、同じ所にいて、場所が決まっているんだなあって思いました。



<久木元教育長>美人のバディと言っていた子だね（笑）。学校一の人気者。そんな感じだったと言っていたね。

<井本>そんな感じでした。

<長澤教育長職務代理者>坂本君は？

<坂本>それぞれがパソコン持っているの、ちらっと見るとするとそれぞれがそれぞれの方法で授業をまとめてたりしていて、自分のやり方っていうのがあるなって感じた。自分の席というのがないので、生徒同士の交流がよくあったり、先生と生徒が仲が良かったりとか、交流が凄いなと思います。

<長澤教育長職務代理者>授業中はパソコン置いてあるの？タブレット？

<坂本>それぞれがノートパソコン持っていて、人によって種類とか違うんですけど、先生が授業しているのを見て、自分でまとめる。みたいな。

<長澤教育長職務代理者>個人のパソコンを持っているわけだね。畠中君はどう思った？

<畠中>日本の大学の学食は定食を食べるみたいなイメージなんですけど、オーストラリアでは単品でハンバーガーとかフィッシュなんかとか売っています。バディの子がいつも買うのがポテトチップスみたいなので、それを毎回、食べさせてもらっているんですが、初めて食べた時、「酸っぱ！」と思ってよく見てみたら、ビネガーって書いていて、酢たっぷりのポテトチップス食べさせられていました。健康的に大丈夫かなと思って、バディに聞いてみたら、「まあ、いいんじゃない」って…。

<長澤教育長職務代理者>島ノ江先生、日本の学校とね、向こうの学校と違いを感じられた事はないですか？

<島ノ江>小学校に行かせていただいたんですけど、低学年の子は主に先生と子どもたちのやり取りがあります。高学年はホワイトボードがあって、そこに課題が記されていてそれに向かってそれぞれグループ学習していたり、個人でやっていたり、色々、課題解決の為の手立てをそれぞれ考えてやっているという形でした。

黒板みたいなのは無くて、ホワイトボードにプロジェクターで一週間の予定だったり、その日の予定を映してある。それ以外はペンで書く事もほとんどなくて課題だけが書かれていました。

日本であれば目当てがあってそれに全員

で考えを出し合うみたいなどころが多いと思うのですが、そういうところが全く違うなと思いました。

<長澤教育長職務代理者>今井副参事は他の国も経験されているんですがオーストラリアの特徴みたいなものは？

<今井>今回のチャールズ・キャンベル・カレッジは小、中、高がほぼ同じ場所でした。小学校だけは学級があつてという形だったんですが、中、高は全部教科担当制で、木村さんが言ったみたいに子どもたちが教科の先生の所に動く、自分のノートパソコンを持って動いて、毎回先生が映しているトピックに関して自分で調べ学習してまとめるというような授業でした。

ノートパソコンの制限はどうなっているのか、インターネットを全部取り仕切っているような担当の人に聞いたのですが、それなりのセキュリティを持っているみたいでインターネットも「ここから先は繋がらない」というような制限はかけてはいる。ただし、ノートパソコンを持ってきたら学校のW i F i につないでインターネット見れるように設定はしてある、ということでした。

まとめ方もそれぞれでした。最後の日に中学校3年生の授業に2時間、べったり入らせていただきましたのですが、1時間は英語の授業で、先生が「このクラスはあまり意欲的ではない」というような話をしてくれて、何もしていない子もいたのですが、それでもそれなりにみんなワードを使ってまとめていました。

最後の歴史の授業で「この学校では一番優秀な先生だ」と説明されて、授業を受けたんですけど、ロの字型で子どもたちがず

ら一っつと座っていて先生は後ろから一人一人に声をかけて、ドイツの話だったと思うのですが、まとめてやっていました。

あと、全員制服なんですけど、高校3年生だけ高校3年生と分かるウィンドブレーカーというか、ジャケットみたいなのを着ていて、その子達だけのラウンジみたいなのがあって、高校3年生たちは大学に向かって勉強しているという話を聞きました。

小、中、高があるのはいいなと思います。単純に。



<長澤教育長職務代理者>さっき、1単位時間長いつて言っていましたけど、1単位時間って決まってるんですか？

<今井>決まっていたよね？

<坂本> 授業によって違った気もするのですが…。

<畠中>日本よりは長かった気が…。

<長澤教育長職務代理者>自分で教科選択するわけでしょ？どの教科に行っても同じ時間？

<今井>月、水、金学校に行ったんですが、月曜日だけミーティングが午後にあるからという特別時間割だったと思います。水、金は同じ時間割だったと思うので。

月曜日はたぶん短縮で時間を短くして子どもたちを早く帰らせて、先生たちの全体のミーティングがあるって言っていました。  
<長澤教育長職務代理者>さっき長い時間



の授業があるって言っていたね。

<今井>水、金が普通の時間で1時間以上。

<長澤教育長職務代理者>一時間以上？よく持つね！（笑）

<今井>中休みがあってそのブレイクタイムが、昼食まではいかないけど、軽食はとっていいという時間で、その時間にみんな売店で買って何かを食べる。

<坂本>その時間になると売店に列ができるんですよ。そこでもちょっと「何買うの？」とかしゃべったりして。あと、めちゃくちゃグラウンドが広いんで、そこで一緒にサッカーをしたりしました。

<長澤教育長職務代理者>なるほど。ありがとうね。

<土川委員>今井副参事、社会の授業でそれぞれがまとめてって言ってましたが、一斉授業はないって事ですか？

<今井>一斉授業はないです。

<土川委員>向こうの学校はひとクラス何人位で、何才から何才くらいの子が中学、高校って呼ばれるところに行っていたのかな？



<畠中>バディが同い年の子なんですけど、14才とか15才に見えないくらい背が高く、成人超えているのかなと最初見た時は思いました。

<土川委員>皆さんはどんな感じでした？

<一同>ひとクラスどれくらいいたんだろ…。

<今井>10人から20人くらいまでですね、ひとクラス。多くても20人いかない感じですね。

<土川委員>クラスがないということはクラスメイトがいないですよ。

<今井>クラスは一応あるというのは聞きました。クラスで集まる部屋があって、そこで出欠の確認だけとって、ビーっとチャイムが鳴ったら自分たちの授業の部屋へ行くと聞きました。

<土川委員>今日は皆さんにすごく会うのを楽しみに来ました。とても元気で、一番最初は緊張していたみたいなんですけど、だんだん慣れてきて元気な様子を見て嬉しく思います。

パスポートとったりとかいろんな経験があったと思うんですけど、一番印象に残っている事って何ですか？

<畠中>オーストラリアに日本でも有名なタピオカミルクティーの店があって、そこでタピオカミルクティー買ったんですけど「何%？」と聞かれて、よく分からないので「100%」と答えたら、カップに100%のタピオカに、ちょっとミルクティー入っている感じのが来て、ほぼタピオカを食べていました（笑）。

<土川委員>畠中さんの報告を聞かせていただいて、単なる旅行ではなくてそこでプチ定住というか、色んな体験をされたというのが凄く印象的で、楽しかったです。

あと坂本さんの報告でアボリジニについてわかったという事があったのですが、アボリジニについて一番覚えている事って何でしょうか？

<坂本>アボリジニは文字を使わないんです。かわりに絨毯みたいなのがあってそこに色々な模様がいっているんですけど、それが単なる模様でなくてそこからいろいろなものが読み取れるという、まるでQRコードみたいになっている事を教えてもらいました。大陸の独自の文化ができていたんだなという事と白人がきて、それからだんだんアボリジニがいなくなった歴史の悲しさっていうのも感じました。

<土川委員>やっぱり行ってみたいとわからないということがありますね。日本でみてもアイヌとか、同じような運命があったのかもしれないね。

次、皆さんよく言っていたのですが、井本さん、オーストラリアの人の優しさに触れたと言われているんですけど、なんで優しいと感じたのかな？

<井本>中野さんと角さんと買い物に行ったのですが、その時に日本のことが大好きなおじいさんがいて、その人が「何を探しているの？」とかグーグルで訳して聞いてくれて、「〇〇を探しています」って言ったら、ずっと探してくれて、とても良かったです。



<土川委員>興味を持ってくれたという事が何かうれしかった、それで優しいなって思ったんですか。

<井本>はい。

<土川委員>なるほど、次、木村さんかな。お出迎えの時のホストファミリーが玄関を飾り付けて歓迎してくれたのが嬉しかったみたいだけど、もし、自分が人を喜ばせるにはどんなことをしようかと思いましたか？

<木村>日本とオーストラリアは季節が真逆だから「体調とかしんどくない？」とか聞いてくれたり、食べ物とかも違うから「これまずくない？美味しい？量は大丈夫？」とか聞いてくれて嬉しかったから、自分がその立場になったら、自分もそういう声かけをしたいです。

<土川委員>これから、外国の人もオリンピックがあつたり、万博があつたりして来られると思うけど、難しい事ではなくて、小さな事、聞いてもらったら嬉しいという気持ちがあつたら、また、それを役立ててみて下さい。それから角さんはカンガルーの肉、食べたの？どんなのかなって思ってます？

<角>カンガルーの肉、やっぱり一回は食べたいと思ってたんで。

<土川委員>カンガルー食べるって知らなかった。

<角>では、是非食べてください(笑)。

<長澤教育長職務代理者>あれ、誰が料理してくれたんですか？

<今井>私のホストマザーが。どうしてもみんなに食べてほしくて私が最終日をお願いしたんです。私が焼こうと思ったんですが「焼いてあげたいので、買いに行ってくれる？」っていう話をしていたら最終日に料理までして学校に持ってきてくださって。私が小さく切ってみんなで摘まめるようにしました。でも、現地の方はあまり食べな

いみたいで、カンガルーは美味しくないってというイメージがあるようで、バディの子たちに勧めたら、「カンガルーなんて美味しくないからいらない」って最初は言っていたけれど、トライしてって言って、食べたら「もう一個いい？」みたいな感じで。美味しかったです。すごく柔らかくて、美味しい味付けでした。

<坂本>結構柔らかくて、独特の風味というか、例えるなら、焼きエビみたいな風味がして…。

<畠中>何？野球部？

<坂本>焼きエビ！焼いたエビ。

<畠中>わかりにくい！

<土川委員>報告会の画像で、みんなコアラ抱っこしたって言ってたけど、コアラってどんな感じって思ってた、実際に抱っこしてみてもうどうだった？角さん、それについて教えてください。

<角>抱っこするのがみんなの中で最後のほうだったんですが、みんなのを見ていてどんな感じかなと思いつつ、抱っこしたら結構重かったです。重さとか大きさとかも赤ちゃんそっくりで、赤ちゃん抱っこしているみたいで、可愛かったです。

<土川委員>じっとしているの？

<角>じっとしています。

<土川委員>ほんと。おとなしいんだ。抱っこしたことないので。笹木さんは白いカンガルーとかワラビーを見たって言ったのが印象的でした。ところでホームシックにかかりませんでした？

<笹木>なりかけました。



<土川委員> 何日目くらい？

<笹木>1日目で、ベッドに寝ころんだら「あ〜」ってなって。一瞬、「あ〜帰りたいな」って思ったんですけど、すぐ戻りました。

<土川委員>そうですか。他の方はどうですか？ホームシックかかった方います？みんな楽しんでこられた感じなんですけど。

<坂本>ホームシックというよりも逆ホームシックになって、家に帰りたくないみたいな、ずーっとここに居たいみたいな感じになって。

<土川委員>そう、みんなすごくたくましい。次は水野さん。バディとすごく楽しんだみたいなんですけど、バディの制度って日本ではあまり聞いたことないですが、自分もやってみようかと思いませんか？どんな事してあげたいですか？

<水野>一緒にスポーツしたりしたいです。

<土川委員>そうですか。行ってきて、自分が成長したなと思う事ありますか？

<水野>英語が話せるようになった。

<土川委員>今後、何か、それを活かそうとか？っていうのはどうですか？思います？

<水野>はい。

<土川委員>みんな言葉には困らなかった？中野さん困らなかった？

＜中野＞通じない時とか、わからない時はあったけど、その時はもう「一回言って」って言ったり、「わかりません」って言ったりしました。

＜土川委員＞見ているとフィリピンとか、中国系とかいろいろな方がいたと思うけど、その事については日本とは違うところだと思うんだけど何か印象としてありますか？

＜中野＞学校に行ったら黒人がいたり、白人がいたりとかで、家のホストファミリーはイタリア系だったんですけど、言葉が速いって言うか、独特で、送り迎えとかしてもらった時に会話していてもあまり何を言っているのか…めっちゃ難しかったですけど、単語で聞き取って、何とか。

＜土川委員＞頑張りましたね！川田さん、いろんな街の様子とか発表してくれてたけど、街づくりの中でこんなのがあったらいいとか、これほしいなみたいなありますか？

＜川田＞アデレートは公園が凄く多くて、しかもその一つ一つが大きいし、あとバスケットコートが多くて日本ではない感じがあると思いました。門真でもあまり見た事がないので、それは欲しいなと思いました。

＜土川委員＞みんな色々、今年は特に違う意見が聞けたのでとても楽しかったです。ありがとうございます。

＜長澤教育長職務代理者＞もう一つメトロカード？持っていたね。ICカードと思うのだけど。日本でメトロって言ったら地下鉄だけど、向こうに地下鉄あるの？

＜今井＞あるけど、今回は乗ってないですね。全部まとめてメトロって呼んでいる。

＜長澤教育長職務代理者＞それは自分で一枚いくらか入金するの？

＜水野＞ホストファミリーが買ってきたからお金だしてって言われて（笑）。

＜土川委員＞あと、笹木さんのホストファミリーが恐竜が好きで、消しゴムを集めているとおっしゃってましたが、予めホストファミリーの情報はみなさんにはいっているのですか？

＜今井＞今年はかなり遅くて、ホストファミリーの構成とかは出発の前日にしかなかったもので、みんなよく準備して行ったなというくらい。いつもはもう少し早くくるので、子どもさんがいる、とかいうのはわかります。

＜土川委員＞そうなんですか。ありがとうございます。

＜久木元教育長＞バディの人はものすごく慣れているという感じですか？

＜坂本＞ たぶん、初めてだと思うんですけど、先生が留学生の受け入れに、結構、力が入れているって言っていました。自分が行った時も、また別で韓国人の女の子達がいっぱい来ていて、結構いろんな所に留学生がいたりします。



＜今井＞バディも自分で手を挙げてやりたいと言ってやってくれたみたいですね。

＜久木元教育長＞なるほど。そうですか。今でもバディと連絡取っていますか？

＜畠中、坂本＞はい、取っています。

＜久木元教育長＞取っていない子もおりそ

うだね。水野君は？

<水野> うーん。

<久木元教育長> なんで？これから英語の勉強しないとイケないのに大事な人だよ（笑）。

<水野> 一応、繋がっては、いる。

<土川委員> また外国に行こうか思いますか？

<一同> はい。思います。

<土川委員> 一生もの体験になりましたね。

<長澤教育長職務代理者> みんなが取ったパスポートは5年のやつ？

<畠中> はい、5年のです。

<長澤教育長職務代理者> 年齢的に5年しか無理なのか？

<今井> 未成年は5年しかとれません。

<長澤教育長職務代理者> 5年だったら高校の修学旅行は使えるわけだね。今、外国多いからね。

<久木元教育長> 今は修学旅行の他にも独自の2、3週間の留学プログラムもありますよ。ほとんどの高校でやっていると思います。

<坂本> 僕たちが行った時もいろんな高校の留学生達と会ったりしました。ちょっと話したり、「どこから来たんですか？」と聞いたりしました。

<久木元教育長> そうですか。自分たちは、どう言ったの？「門真を代表して来ました」って言った？

<坂本> はい！

<久木元教育長> 皆さん、来年以降、大学生になっても、社会に出てからも後輩の為に頑張ってくださいね。

<今井> 皆様、本日は報告会、懇親会と長時間、ありがとうございました。研修生の皆さんは、学校が始まったら、友達にもいろいろ話してあげてください。

それでは、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

